

つなぎ農地利用最適化推進運動

農委会名：津奈木町農業委員会

1 地域の概要

津奈木町は、熊本県南部に位置し、東南北を山々に囲まれ、西は不知火海を隔てて、天草諸島と対面し、面積は、東西6.7km、南北9.0km、総面積は34.09km²を有し、東西南北を山、川、海によって区切られた地域となっており、標高は260m～520m前後の山々が連続しており、平地が少なく、町の約6割が森林となっている。

農業については、温暖な気候を生かして、海岸傾斜地や内陸部の平坦地を利用した甘夏、不知火等の果樹栽培が行われている。水稻については、ヒノヒカリなどを中心に栽培され、裏作としてサラダ玉ねぎを栽培する複合経営的農業生産が展開されている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 6人（うち認定3人、女性1人）
- (2) 推進委員数 5人（うち認定4人）
- (3) 事務局体制 2人（うち専任1人、兼任1人）

3 掲げた目標

- (1) 目標地図の素案作成及びそれに伴う集落座談会への協力
- (2) 耕作放棄地の解消の実践 1,000m²（青パパイヤ推進事業の実践）

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

- (1) 目標地図の素案作成及びそれに伴う集落座談会への協力

本町では、地域計画策定に向けて、農地所有者への意向調査を農業委員、農地利用最適化推進委員（以下：委員）で戸別訪問によるアンケート調査を行った。回収率は90%以上となり、素案の作成において、意向調査を反映した目標地図の作成ができた。

また、農林水産課と協力し、7月と11月に地域座談会を町内5か所、計10回開催し、委員は担当地区において参加し、農業者との意見交換を行った。

このような、座談会等を経て、令和7年3月、本町の地域計画が策定できた。

- (2) 耕作放棄地の解消の実践

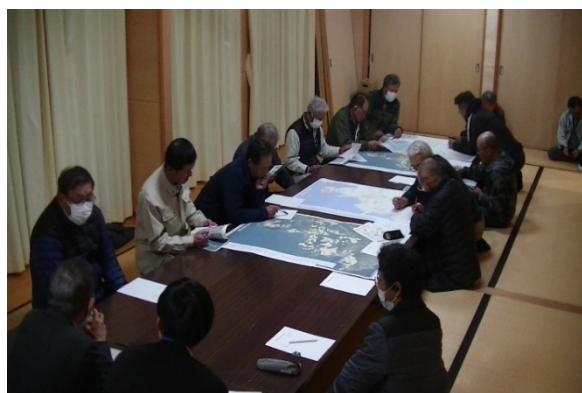
耕作放棄地の解消に向けた自主活動として、令和6年度で3回目となる、青パパイヤの実証栽培を行った。

3月の土壤改良に始まり、5月に植付け、その後、除草等の当番制で管理を行った。10月までには収穫を行い、ふれあい祭り等で配布を行った。また、熊本県立大学等が視察に訪れて、外部に向けて、本町の青パパイヤ生産事業についてもアピールできたと思われる。

近年の気候変動により、難しいとは思われるが、今後も継続し、農村環境保全へ向けて取り組んでいきたい。

別紙様式①

【地域座談会にて、目標地図の素案と地域座談会】



【青パパイア作付けと成長した青パパイア】



5 取組の成果

(1) 目標地図の素案作成及びそれに伴う集落座談会への協力

地域計画策定に係る地域座談会において農業者、委員の参加のみでなく、熊本県芦北地域振興局、熊本県農業公社、あしきた農協営農部等の幅広い参加があり、合計で約200人を超す座談会となり、貴重な意見を頂くことができた。

(2) 耕作放棄地の解消の実践

青パパイア推進事業については、1,000m²の耕作放棄地の解消をすることができ、農業委員会活動の見える化の推進ができた。

6 課題と今後の方針等

地域計画策定後は、見直し業務等が発生していくが、農林水産課を含め、関係部署と連携しながら、地域農業について計画を策定していく。

また、遊休農地解消については、農業委員会活動の見える化を推進し、農作業の省力化を図りながら、優良品種の栽培（青パパイアを含め）を実証しながら、検討していきたい。